

## 第2回京都府自殺対策推進協議会

### I 日時・場所

平成27年9月1日(火) 午後3時～5時  
京都ガーデンパレス「鞍馬の間」(2階)

### II 出席者

#### (1) 委員 (25名中18名)

河瀬会長、三木会長代理、石倉委員、尾角委員、川村委員、久保委員、小林委員、近藤委員、佐々木委員、竹本委員、藪野委員、波床委員、平田委員、藤田委員、丸井委員、矢野委員、山口委員、渡辺委員

#### (2) 京都府

本橋保健医療対策監、余田高齢社会対策監、廣瀬福祉・援護課長、大辻福祉・援護課自殺対策推進担当課長

### III 議事等

#### 1 あいさつ

余田高齢社会対策監

#### 2 協議内容

##### (自殺の問題に関する府民の理解促進)

- 「自殺の問題」に関する府民の理解促進を、「自殺」に関する府民の理解促進に変えることは難しいか。「自殺の問題」とすると、希死念慮のある方は、自分は問題を抱えている人なのだと見られる感覚になると思う。
- 「自殺を防止するためには」という部分を、例えば「自殺の問題を抱えた人を支援するためには」というに変更するなど支援を前面出すのがよいと思う。

##### (自殺対策に関する理解の増進と取組の促進)

- 30年前と自殺に対する世間の認識は変わっておらず、自殺に対する誤解や偏見は未だに解消されていない。
- 啓発活動としては、うつ病の正確な知識の普及啓発も行っていただきたい。正確な知識が広まることで、自殺への偏見も払拭されていくと思う。

##### (学校における体制整備)

- 鎌倉市の図書館での「辛いときには学校に行かずに図書館において」というメッセージは素晴らしく、「不登校解消に向けた取組」との記載は不適切ではないか。

#### (人材養成)

- 教員に対する自死遺児支援に関する研修や情報提供に取り組んでいただきたい。実際に教師からひどいことを言われた自死遺児もおり、また、大人への情報提供は進んでいるが、子どもへの情報提供はまだという状況である。

#### (自殺発生の危機対応)

- 自殺ストップセンターの名称を是非変えてほしい。この名称ゆえに相談したいが相談できないという声もあるので、対応いただきたい。
- 自死遺族でも、自殺ストップセンターという名称のところに相談に行こうとは思わないと思う。

### 3 あいさつ

本橋保健医療対策監